



教育と登山

校長 松瀬 歩

この夏、関東では猛暑が続き、日中外での活動ができにくい日が続きましたが、子どもたちの元気な顔を見て、それぞれ充実した夏休みを過ごしたことが伺えました。

わたしはこの夏、三つの山に登りました。

よく、登山と人生を重ねて語る人がいますが、私は教師なので、山を登りながら教育・学習と登山を重ねて考えてみました。

登山では目標(頂上)に向かって慌てず自分のペースで一步一步確実に歩を進めていくことが大切です。先を急いで上ばかり見ていると足を踏み

外して足をくじいてしまったりオーバーペースで登頂を断念したりすることがあります。学習も登山と同様に、一つ一つ学習内容をしっかり理解して次の段階に進むことが大切です。勉強がわかれば学校生活の大半を占める授業が楽しくなります。先を急ぎすぎて勉強がわからなくなってしまうと学校生活の大半が我慢の時間になってしまい、学校に来るのが苦痛になってしまいます。

共通した目的をもつ登山者同士のあいさつは次の一歩の活力になります。実際、下山途中で小学生らしい子どもが息を切らせながら登ってきたときに、「頂上もうすぐだよ。頑張っ。」と声をかけると、元気な声で「ありがとうございます。」と返ってきました。励ますつもりで声をかけたのですが、私が元気をもらった気がしてとてもうれしかったです。学習でも友達と協働的に取り組んだり励まし合ったりすることで意欲が高まり学習効果も上がります。一人で家庭学習(宿題)しているときの保護者からの一言が子どものやる気につながるが多々あります。

登頂が登山の大きな目標の一つですが、そのあとの下山がとても大切で、下山するまでの計画をしっかり立てることが必要不可欠です。「登りは体力、下りは技術」と言われているくらい下りは難しく細心の注意が必要です。登りで疲弊した筋肉が下りの衝撃を吸収しきれなくなり筋肉がぶるぶる膝ががくがくの状態になった経験をした方は多いと思いますが、それが大きなけがにつながることもあります。大学に入学した後、就職した後に目的を見失う人がいるという報道がたびたびありますが、大学入学・就労が一つの大きな目的であっても、そのあとにも道は続きます。その道を自分がどのように進んでいきたいのかしっかりと見通しをもつことが大切です。

こじつけのような話になってしまいましたが、自分の足でしっかり登り降りてられるように、子どもがよりよい未来のためにどうすべきか的確に判断する力を養うのが教育の一つの役割であり大人の責任です。これからも職員一同、子供の将来の幸せのために力を尽くしてまいります。保護者・地域の皆様の変わらぬご支援・ご協力をお願いいたします。

